

マタイ 40

遠ざけるべき 口伝律法と世俗とは

マタイ福音書15:29～16:12 四千人の供食・パン種の警告

アウトライン

- 0. イントロダクション
 - I. 4千人の供食 15:29～39
 - II. 悪い姦淫の時代 16:1～4
 - III. 答え合わせ 16:5～12
 - IV. まとめと適用
- 遠ざけるべき
口伝律法と世俗とは？





0. イントロダクション

カペナウムの再現図

メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ

イスラエル
(指導者)



バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

宣教開始

メシア的奇跡

安息日論争

ベルゼブル論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

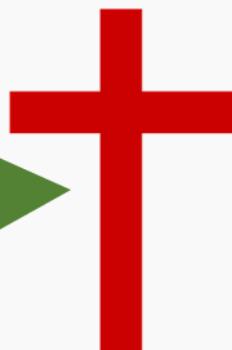
山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晚餐

紀元70年
エルサレム陥落



メシアの活動は、弟子訓練に移行!!

- 主イエスは、教会の礎を築き始められている
→訓練された使徒たちが、教会の土台に!!
- 教えと奇跡も、弟子たちの訓練のために実行。
→弟子たちだけに解説される、**たとえ話**
→弟子たちの前で実行される、**奇跡**
- ガリラヤの領主ヘロデと、エルサレムの宗教権威者に命を狙われ、イエスは、異邦人を地を巡っていく…



II. 4千人の供食

マタイ福音書15:29～39

ゴラン高原から望むガリラヤ湖

本編

ガリラヤ湖東岸で マタイ15:29

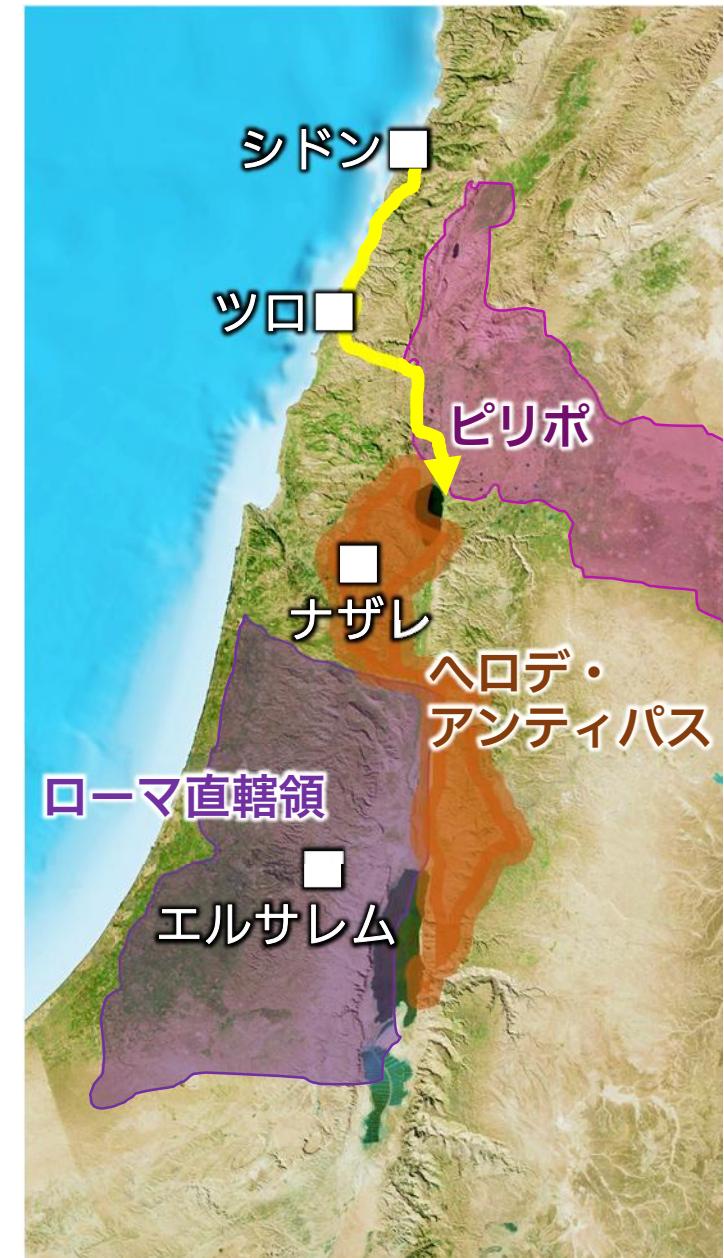
それから、イエスはそこを去ってガリラヤ湖のほとりに^{*}行かれた。そして山^{*}に登り、そこに座っておられた。

*ガリラヤ湖東岸・異邦人の地(シリア領)

デカポリス地方…十のローマ風都市からなる

*ゴラン高原

■異邦人の地、ツロ・シドンから、同じく
異邦人の地であるデカポリス地方へ。



本編

大勢の群衆 マタイ15:30

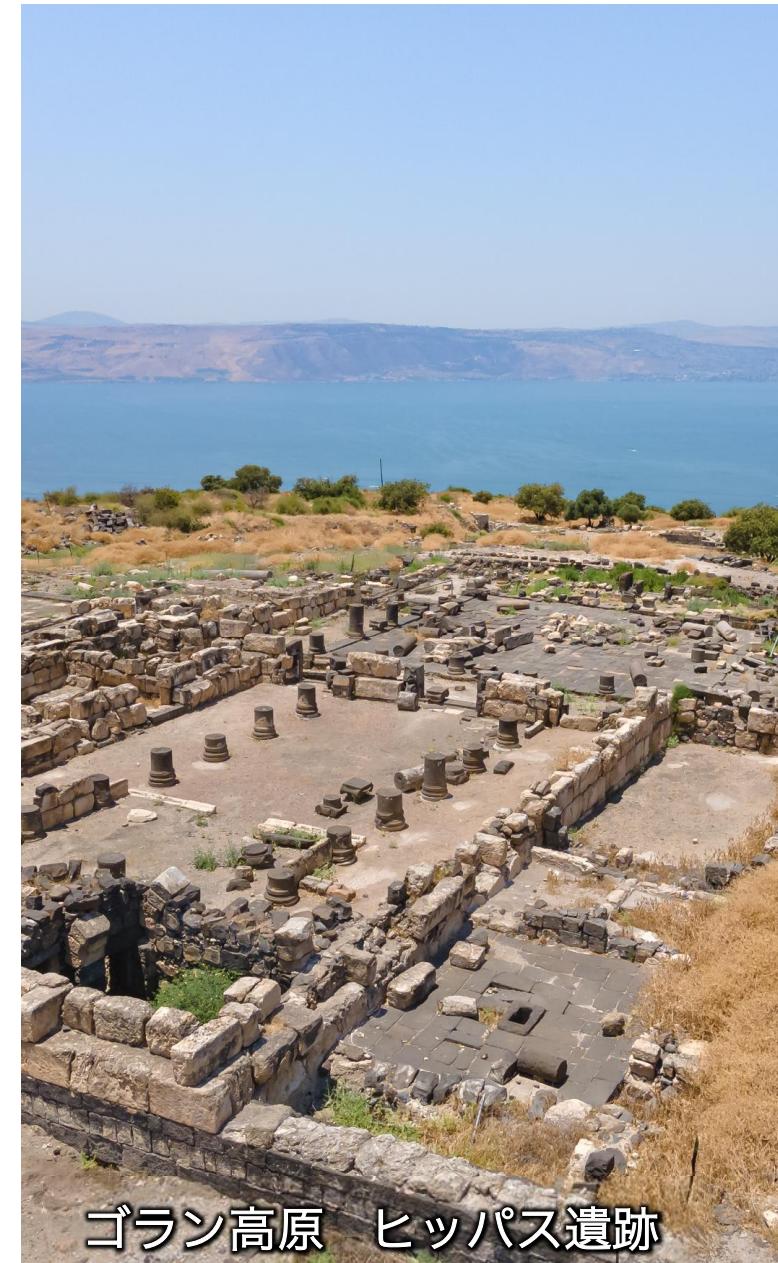
すると**大勢の群衆***が、足の不自由な人たち、目の見えない人たち、手足の曲がった人たち、口のきけない人たち、そのほか多くの人をみもとに連れて来て、イエスの足もとに置いたので、イエスは彼らを癒やされた*。

*癒やされたガダラ人が伝道した影響か

*イスラエル側のガリラヤでは、

大規模な癒やしはされなくなっていた。

異邦人の地で大規模な癒やしが!!



ゴラン高原 ヒッパス遺跡

本編

群衆の驚き マタイ15:31

群衆は、口のきけない人たちがものを言い、手足の曲がった人たちが治り、足の不自由な人たちが歩き、目の見えない人たちが見えるようになる*のを見て驚いた。そしてイスラエルの神をあがめた*。

*メシア預言が、異邦人にも成就

*異邦人が、イスラエルの神をあがめた。



本編

主イエスの憐れみ マタイ15:32

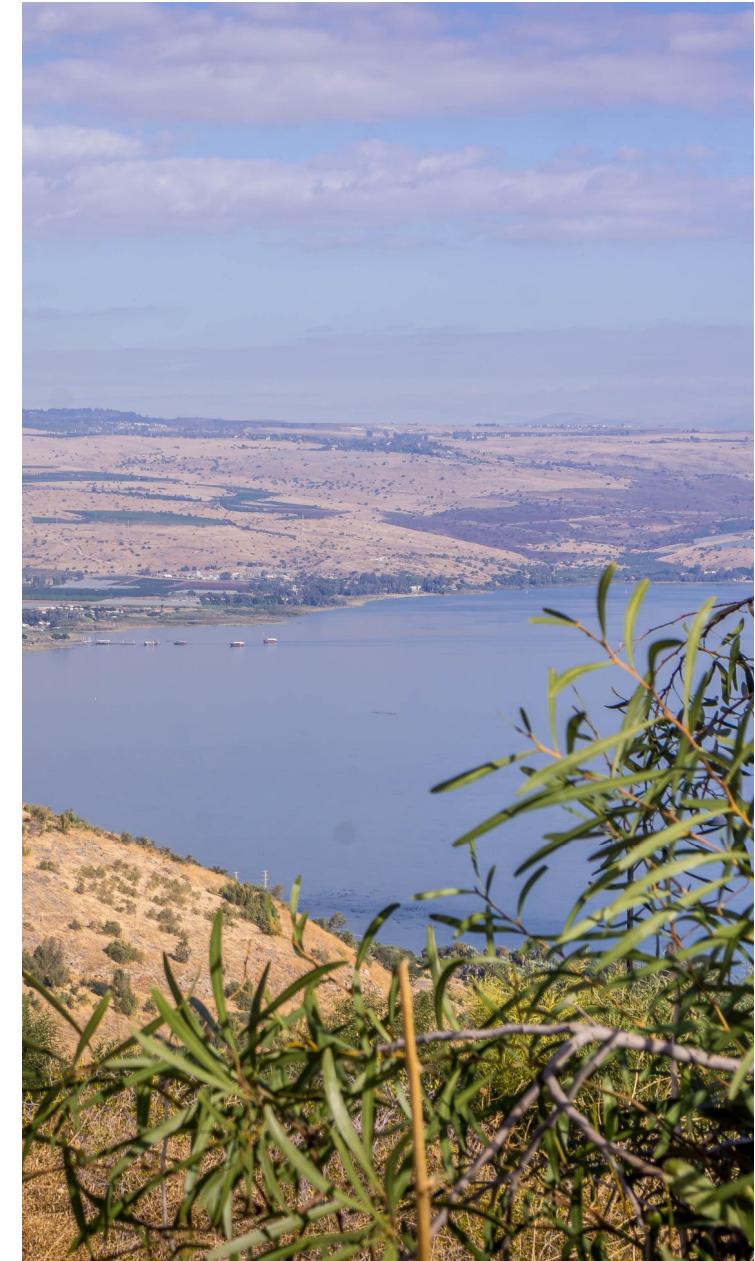
イエスは弟子たちを呼んで言われた。

「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わ
たしとともにいて*、食べる物を持っていな
いのです*。空腹のまま帰らせたくはありません。途中で動けなくなるといけないから」

*三日間も一緒。イスラエルにもない熱心さ。

*3日も滞在するするとは、人々も想定外。

持ってきた食べ物も尽きてしまっていた。

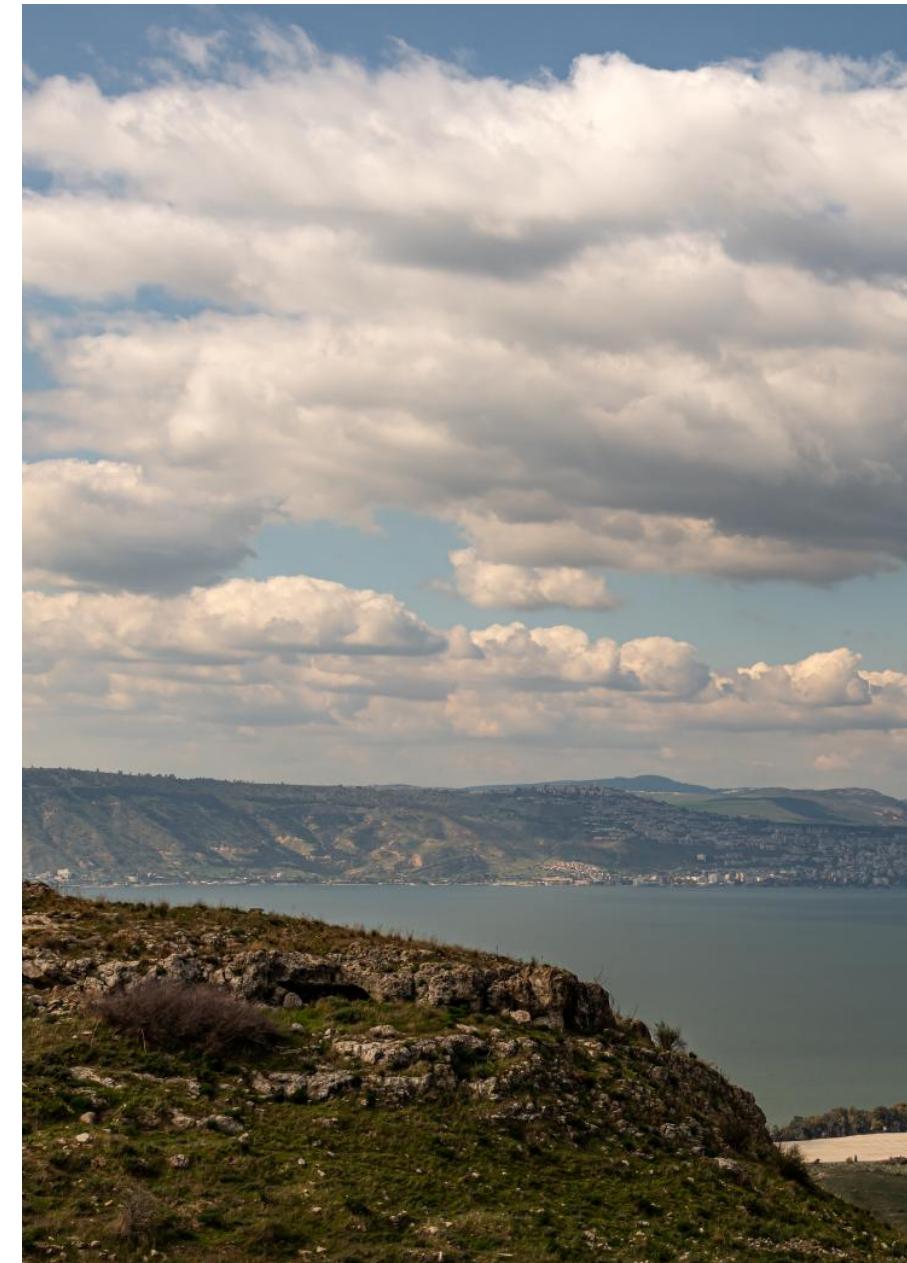


本編 弟子たちの反論 マタイ15:33

弟子たちは言った。「この人里離れたところで*、こんなに大勢の人に十分食べさせるほどたくさんのパンを、どこで手に入れることができるでしょう。」

*人々の方から、山の上におられる
イエスのもとにやってきた。

■弟子たちが口にした言葉は以前と同じ
→やはり「できない」と言う弟子たち
異邦人の地での奇跡は想定外？

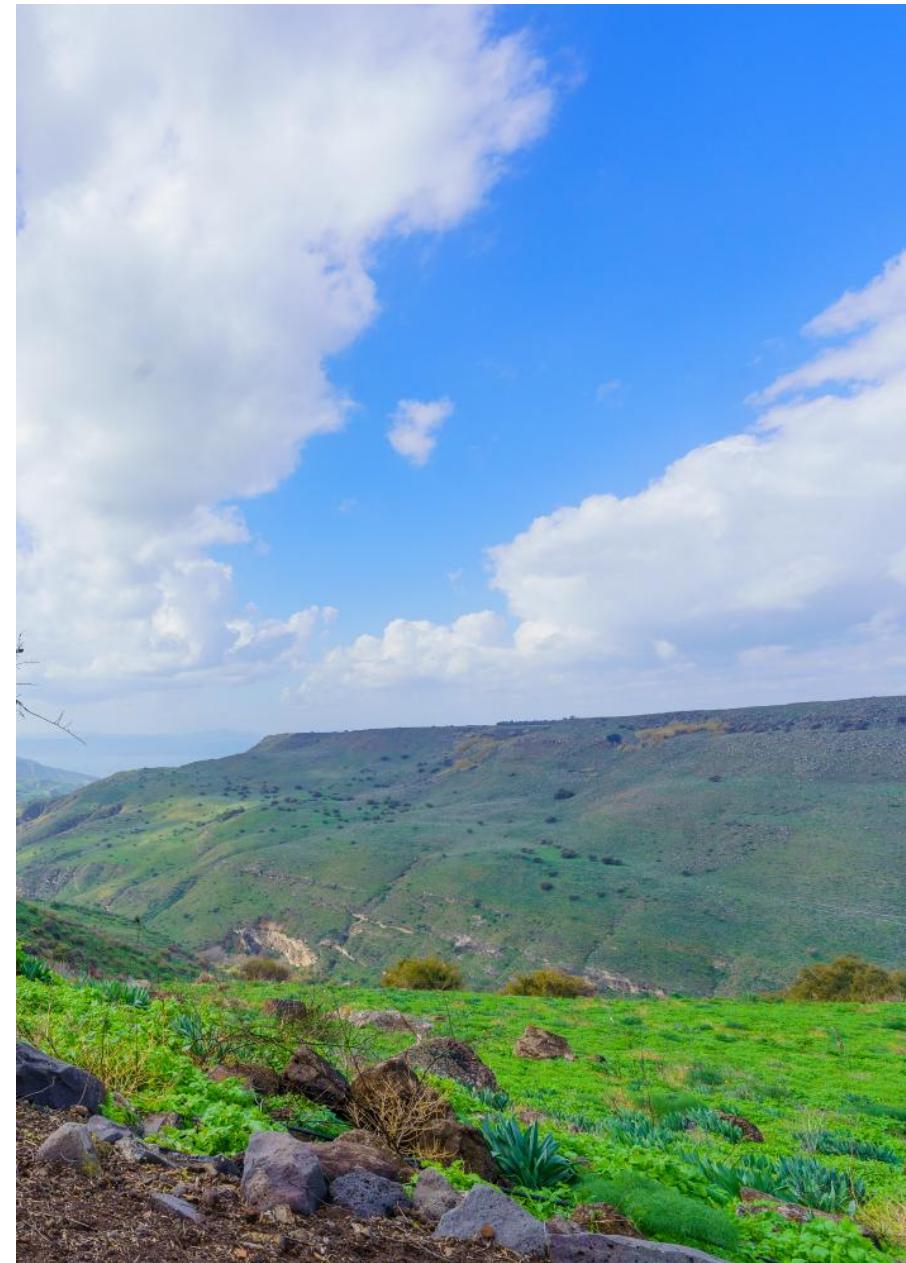


本編 七つのパン マタイ15:34~35

すると、イエスは彼らに言わされた。
「パンはいくつありますか。」彼らは
言った。「七つです。それに、小さい魚
が少しあります。」

そこで、イエスは群衆に地面に座るよう
に命じられた。

■以前と同じ光景が、異邦人の地で。



本編

七つのかご マタイ15:36～38

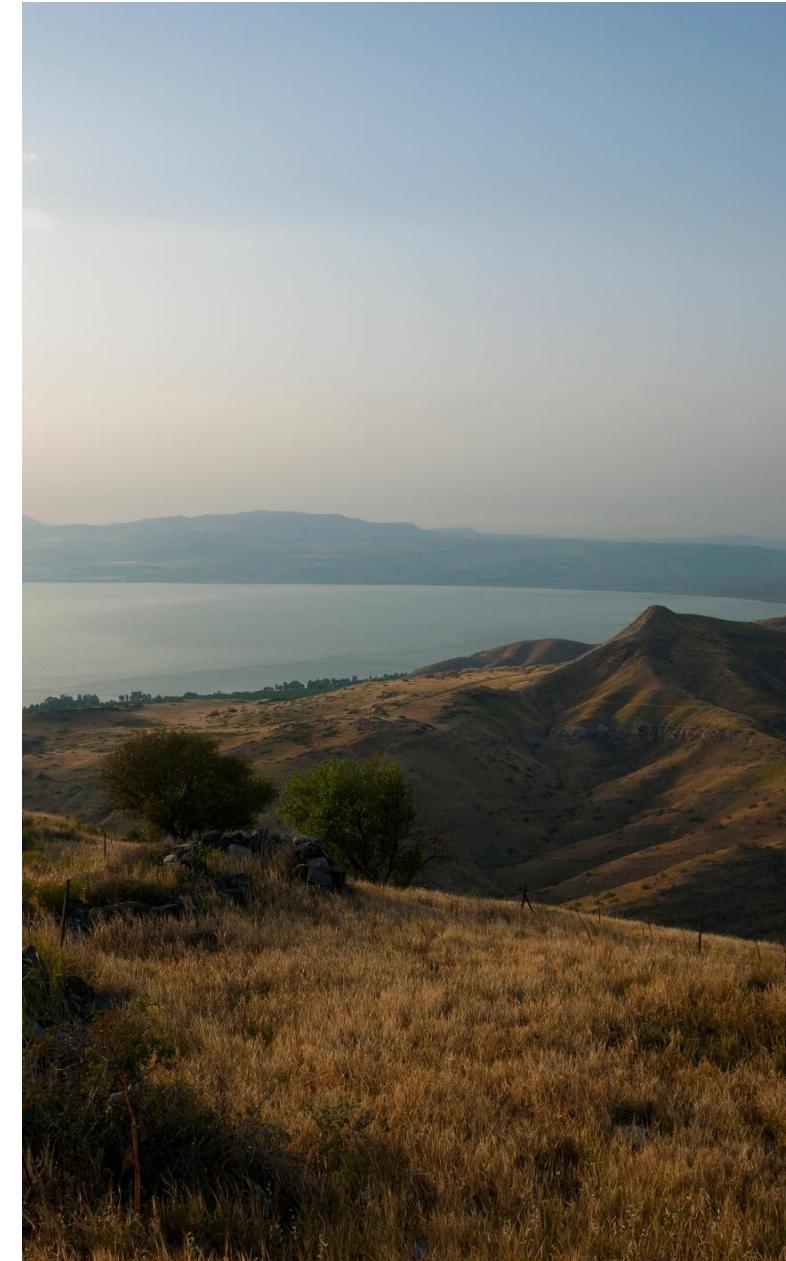
そして七つのパンと魚を取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。

人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、**七つのかご***がいっぱいになった。食べた者は、女と子どもを除いて男四千人であった。

*“七つの大かご”

■五千人の供食は、12のかご

四千人の供食は、7つの大かご



本編 マガダン地方へ マタイ15:39

それから、イエスは群衆を解散させて舟に乗り、マガダン地方*に行かれた。

*ガリラヤ湖西岸

…ダルマヌタ地方(マルコ8:10)

■5千人の時は、逆に異邦人の地へ移動

→同じく人々の熱狂を避けられた？

■異邦人との供食の奇跡の直後に、

ユダヤ人の土地に戻られた。

→メシアの使命、優先順は明らか





II. 悪い、姦淫の時代

マタイ福音書16:1～4

ガリラヤ湖西岸からゴラン高原を望む

本編

敵対者たち マタイ16:1

パリサイ人たちやサドカイ人*たちが、
イエスを試そうと近づいて来て*、天か
らのしるし*を見せてほしいと求めた。

*イエスの前には初登場

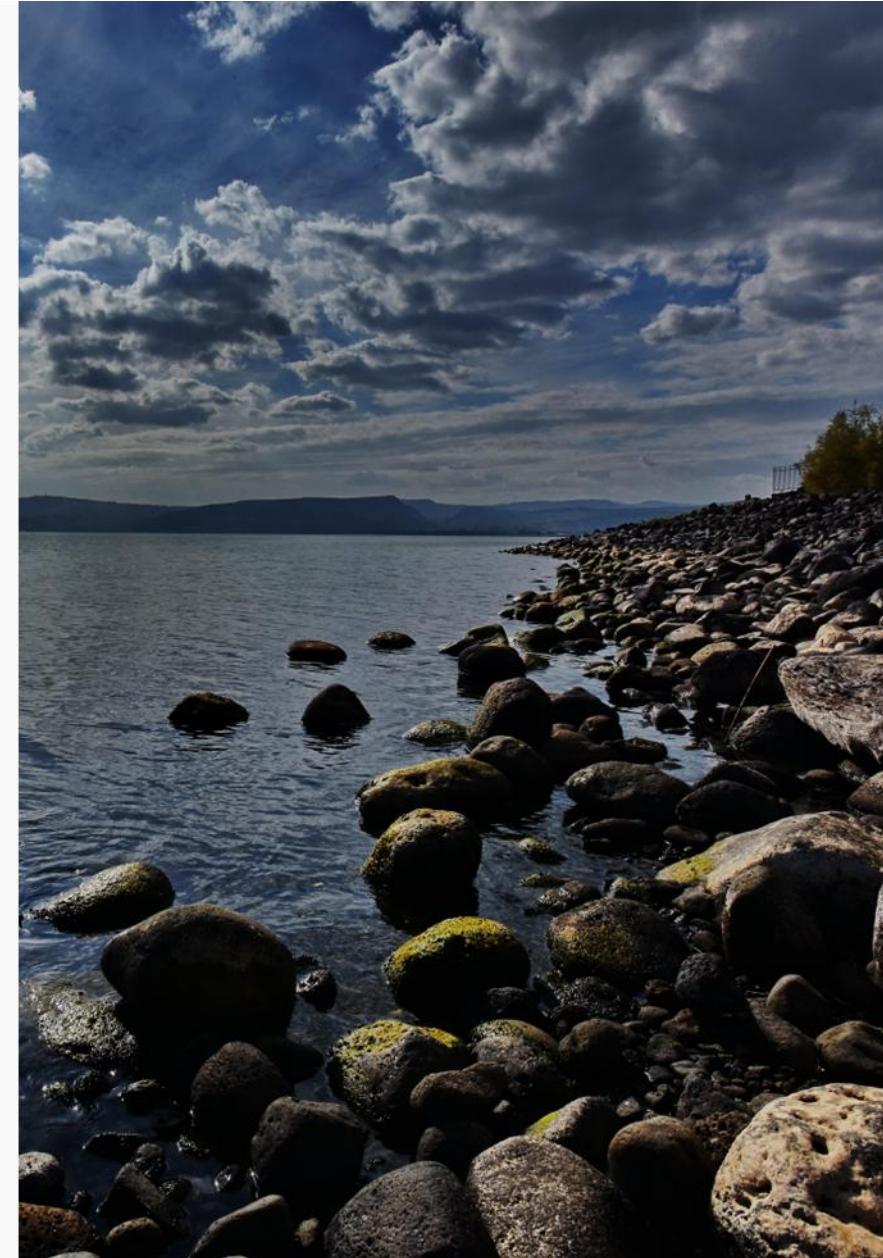
→敵対するパリサイ人と行動を共に!!

*待ち構えていた。完全にお尋ね者状態。

*散々求めた挙げ句、拒絶したのに…

■権力者、宗教指導者が共同で、

捕らえる口実を探しているだけ!!



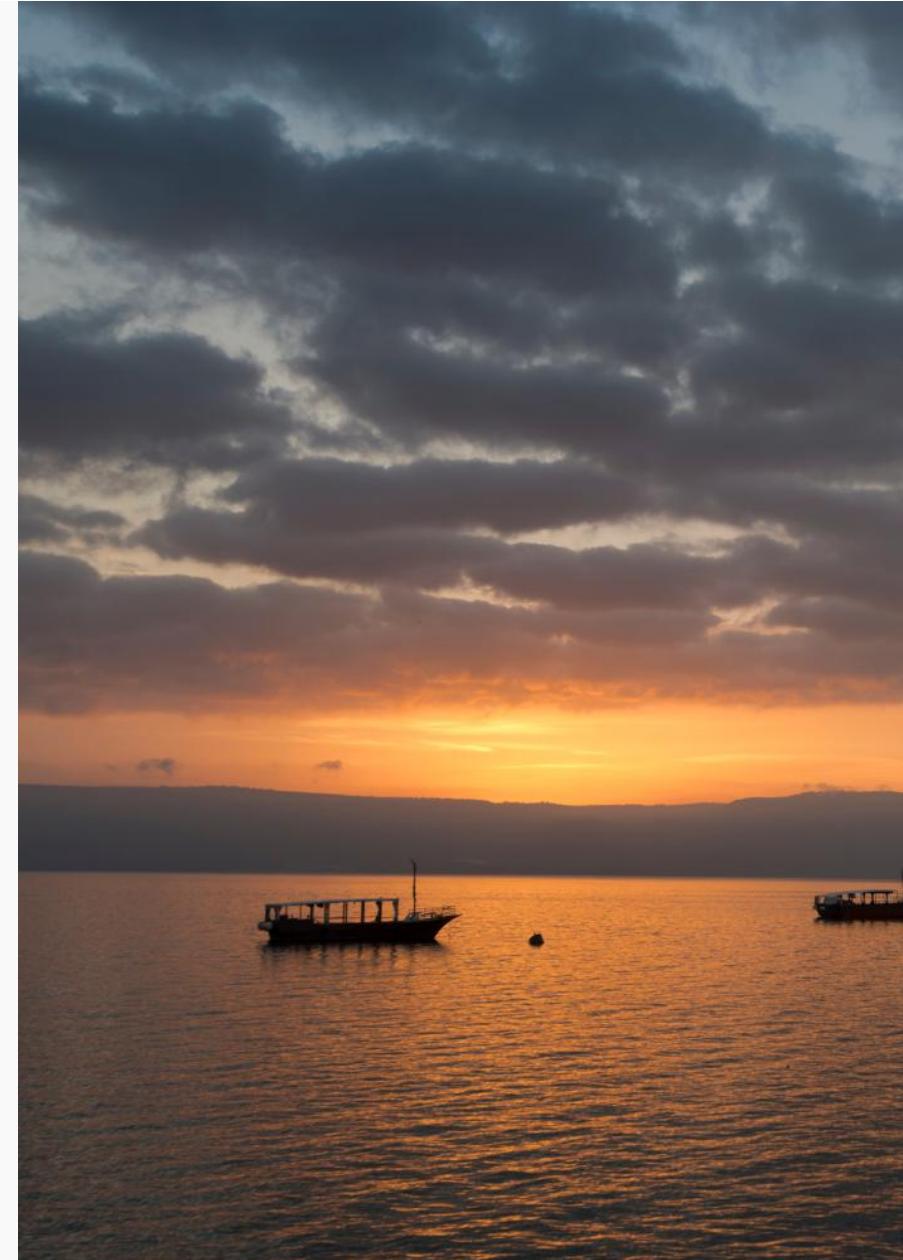
本編

時のしるし マタイ16:2~3

イエスは彼らに答えられた。「夕方になると、あなたがたは『夕焼けだから晴れる』と言い、朝には『朝焼けでどんよりしているから、今日は荒れ模様だ』と言います。空模様を見分けることを知っていながら、**時のしるし***を見分けることはできないのですか。

*“メシアの時のしるし”

■先駆者のヨハネに始まり、メシアの
幾多の奇跡。しるしは十分過ぎるほど



本編

姦淫の時代 マタイ16:4

「悪い、姦淫の時代*はしるしを求めます。しかし、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません*。」こうしてイエスは彼らを残して去って行かれた。

*イスラエルの公式なメシア拒絶後。

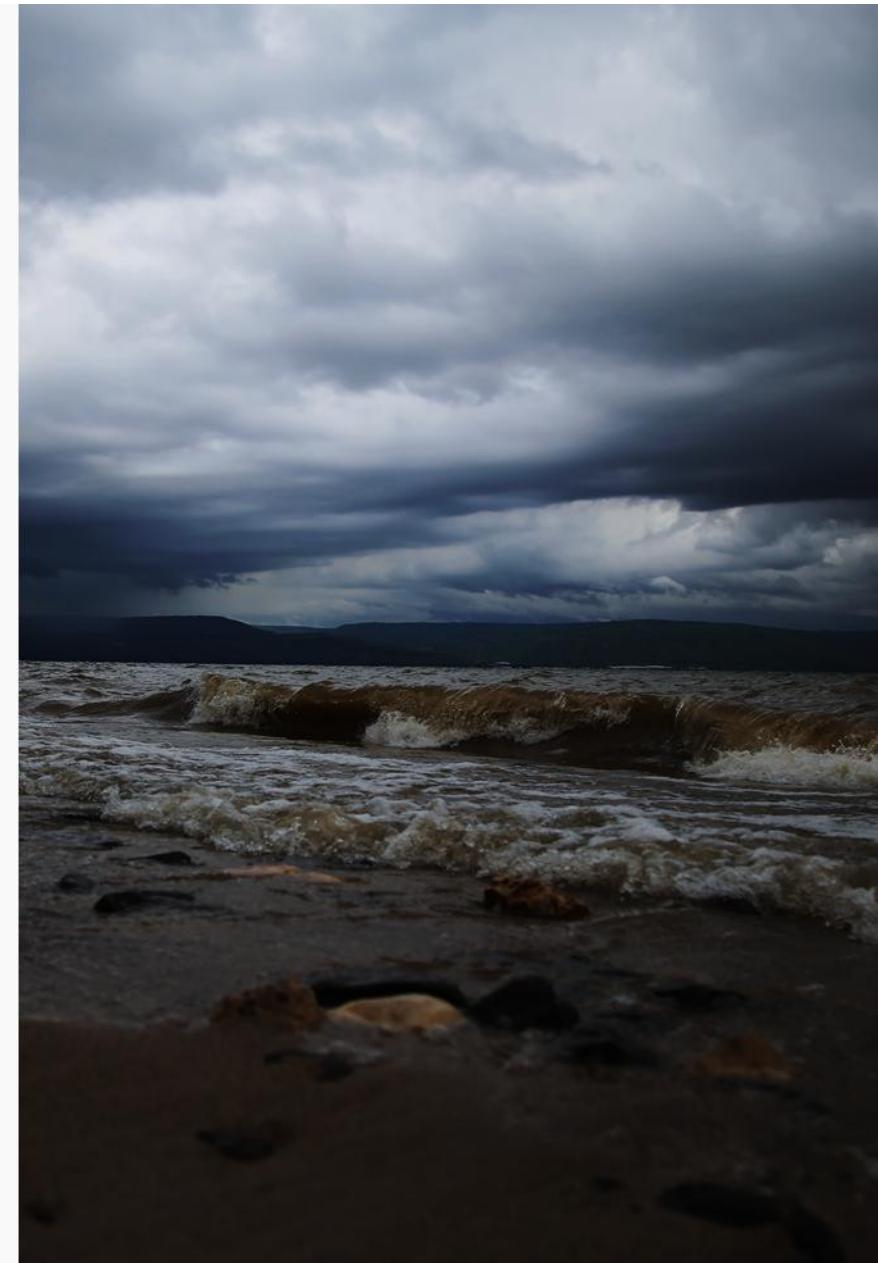
靈的姦淫 = 不信仰の背信の時代

*ベルゼブル論争・マタイ12:39でも

“ヨナのしるし = 復活”

■証拠を見せろと繰り返すだけの敵対者。

→イエスはもはや、相手にもしない





III. 答え合わせ

マタイ福音書16:5～12

重要!!

ゴラン高原

本編

再びの対岸で マタイ16:5~6

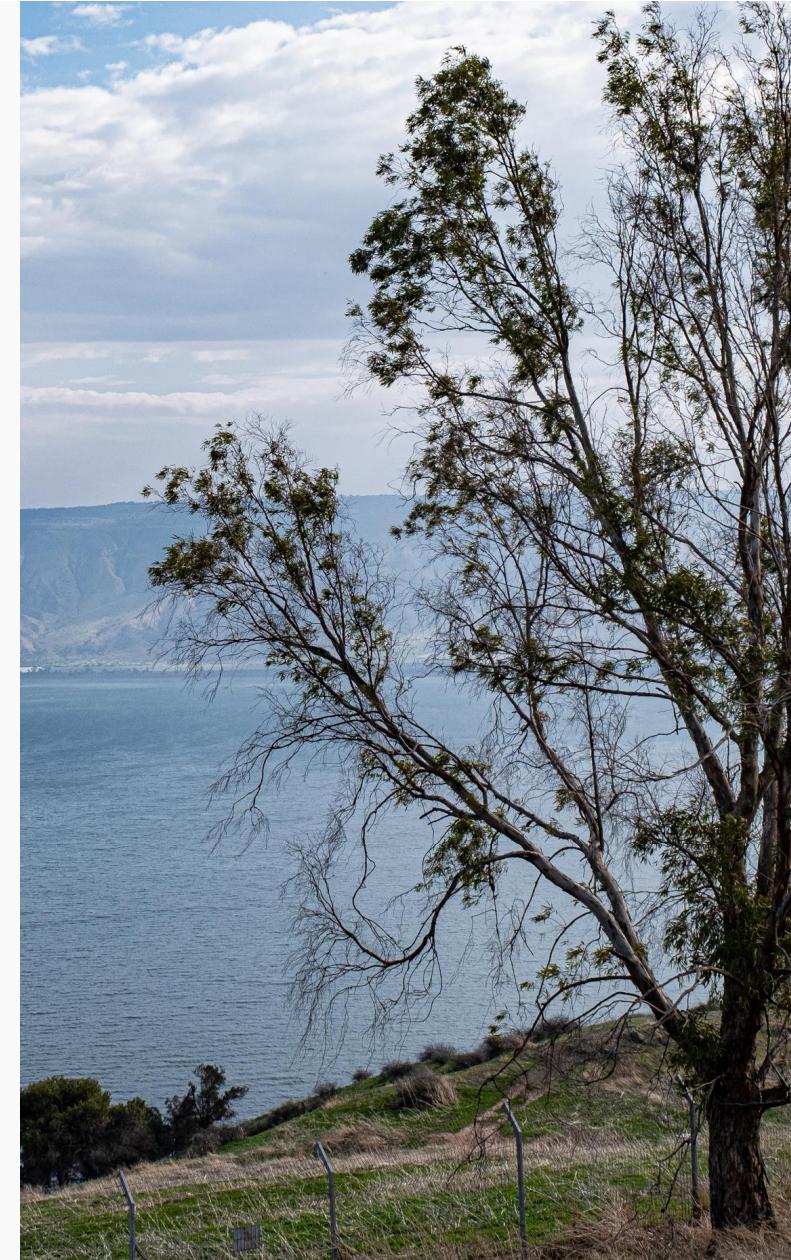
さて、向こう岸*に渡ったとき、弟子たちはパンを持って来るのを忘れてしまっていた*。

イエスは彼らに言われた。「パリサイ人たちやサドカイ人たちのパン種に、くれぐれも用心しなさい。」

*再び対岸のデカポリス、異邦人の地へ

*とんぼ返りで調達する暇もなかった?!

■意識すべきは、パンのあるなしではなく、
パリサイ人、サドカイ人のパン種。



本編

弟子たちの議論 16:7~8

すると彼らは「私たちがパンを持って来なかつたからだ*」と言って、自分たちの間で議論を始めた。

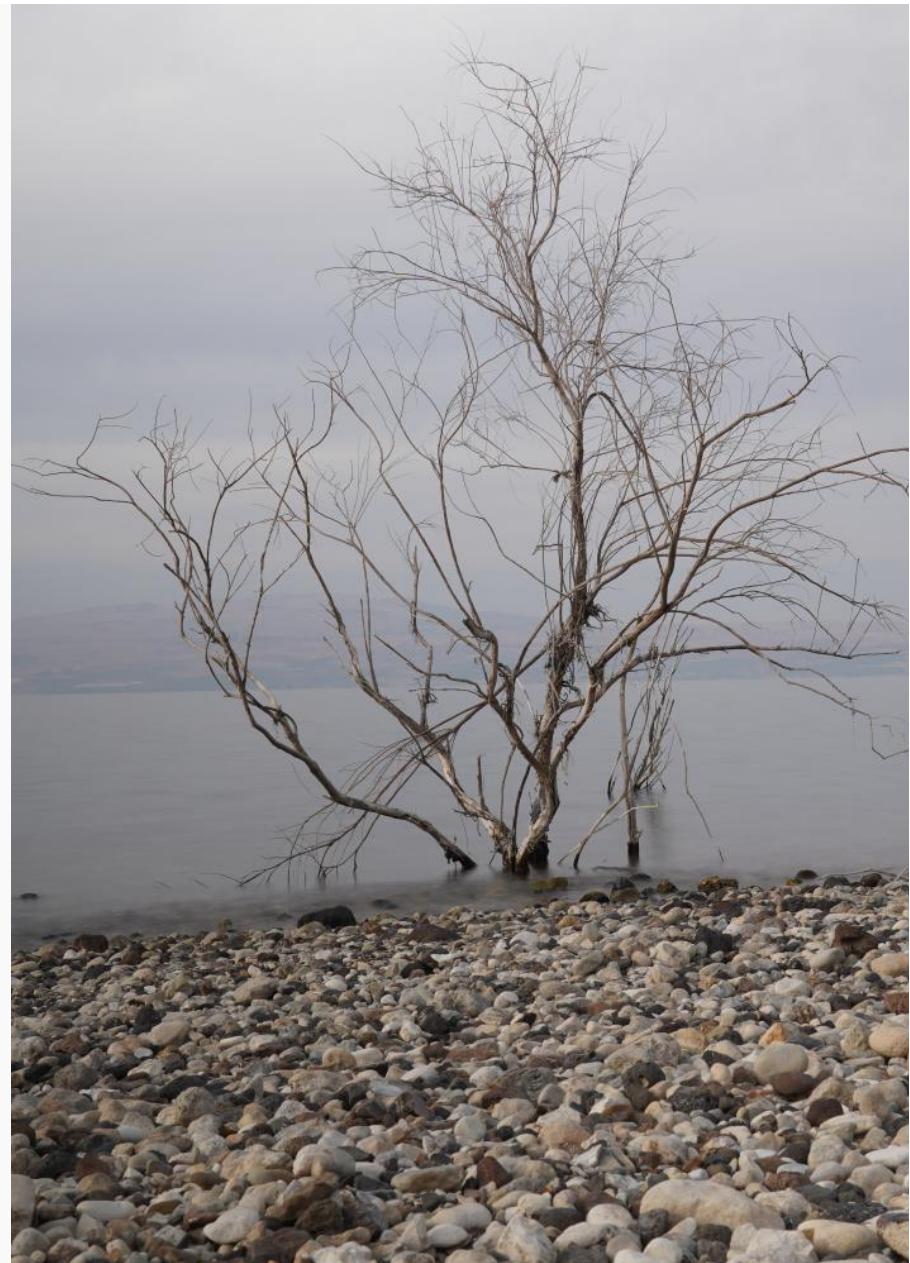
イエスはそれに気がついて言われた。
「信仰の薄い人たち。パンがないからだなどと、なぜ論じ合っているのですか」

*非を責められたように感じた弟子たち。

イエスの皮肉だと受け止めた？

■ 信仰の幼さや後退が強める被害者意識。

感情に振り回され、主の警告を無為に。



本編 メシアの問い合わせ マタイ16:9~10

まだ分からぬのですか。五つのパンを五千人に分けて何かご集めたか、覚えていなゐのですか。

七つのパンを四千人に分けて何かご集めたか、覚えていなゐのですか。

■五千人の供食 →12かご(イスラエル)

四千人の供食 →7の大かご(異邦人)

■メシアの恵みは、救われるべき、すべてのイスラエルと異邦人を満たす。



本編

パン種 マタイ16:11

「わたしが言ったのはパンのことではないと、どうして分からぬのですか。パリサイ人たちとサドカイ人たちのパン種に用心しなさい。」

- 目の前の問題(パンがない)に囚われ、メシアの教えが耳に入らなかつた…。
- 客観的に見れば明らかにおかしいが、容易に陥ってしまうのが、私たち。
- 注力しなければ御言葉は理解できない。

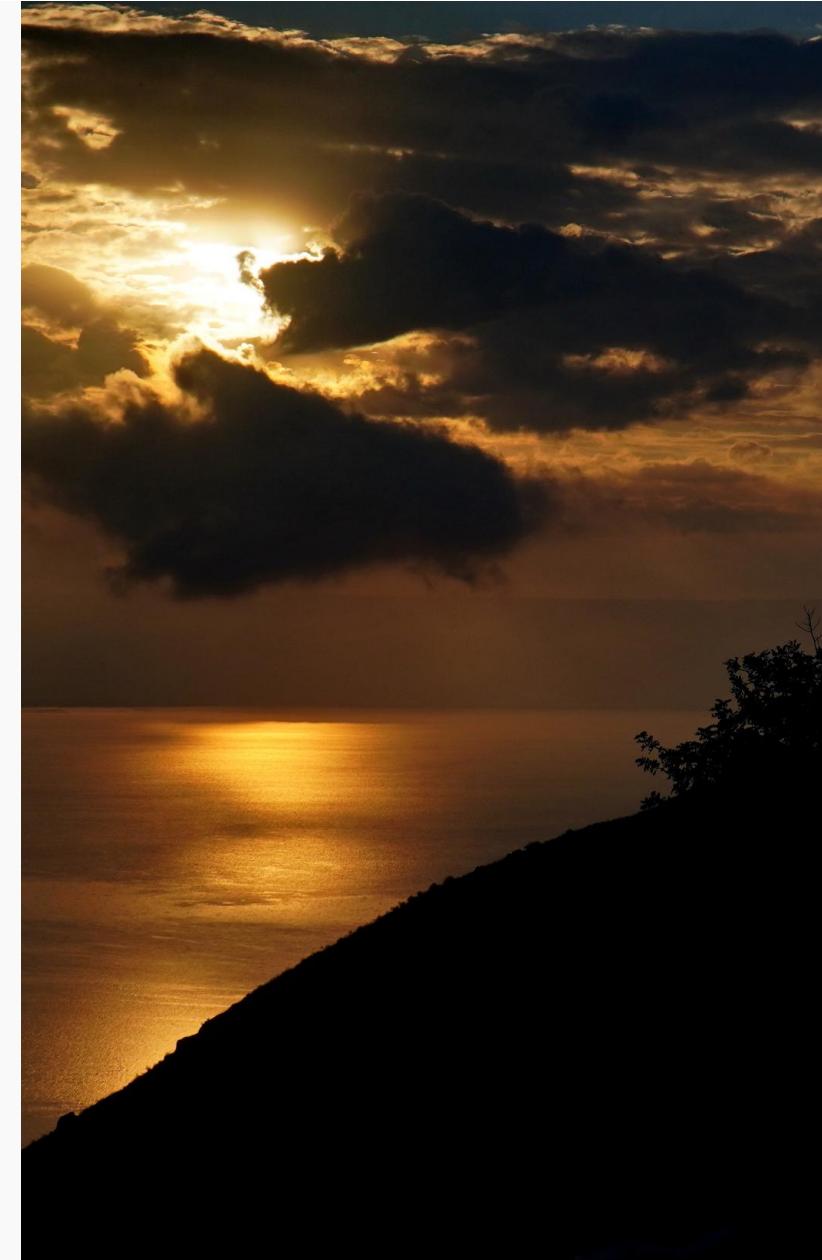


本編

パン種の意味 マタイ16:12

そのとき彼らは、用心するようにとイエスが言われたのはパン種ではなく、**パリサイ人たちやサドカイ人たちの教え**であることを悟った。

- パリサイ人たちやサドカイ人の教えこそ、偽りを膨らませるパン種。
- パン種 = 偽りの教え**こそ、私たち教会が最も警戒すべきこと。





IV. まとめと適用

遠ざけるべき口伝律法と世俗とは？

ガリラヤ湖

二つの奇跡の対比

	五千人の供食	四千人の供食
場所	ガリラヤ湖西岸の山 イスラエル	ガリラヤ湖東岸の山 異邦人 の地
結果	12のかご イスラエルを象徴	7つの大かご 異邦人 を象徴

すべての救われるべきイスラエルと異邦人が救われる

二つの供食をめぐる出来事

バプテスマのヨハネの死	イスラエル	
五千人の供食	イスラエル	
湖上歩行の奇跡	イスラエル	
パリサイ人との論争	イスラエル	
ツロ・シドンの女の娘の癒し	異邦人の地	
四千人の供食	異邦人の地	
パリサイ人、サドカイ人との論争	イスラエル	
二つの供食の意味	パン種の警告	異邦人の地

①二つの供食の解説 と ②パン種の警告 が示すこと

■「異邦人の時」である教会時代の信者への教え

①二つの供食の解説 …救われるべきすべての
イスラエルと異邦人が救われる

②パン種の警告 …教会に偽りの教えが入り込む
①パリサイ派的なもの(口伝律法)
②サドカイ派的なもの(世俗)

教会時代には、救いの恵み と 靈的戦い がある

教会を浸食する 口伝律法と世俗とは？

■イスラエルと異邦人の救いの一方、二つの靈的戦いが!!

①パリサイ派的パン種 …口伝律法

人が勝手に加えた人の教え

②サドカイ派的パン種 …世俗(復活の否定など)

人間的な世との妥協

その教えや慣習は、正しく聖書に基づいているか？

教会を浸食する 口伝律法と世俗とは？

■現代の教会に浸食する口伝律法や世俗とは？

例1) 何がなんでも十分の一献金 →全的献身こそ特権

例2) 悔い改めの実のないまま責任を曖昧に

→赦しとは神への委任。刈り取りは免れない。

例3) 裁いてはならない →内部こそ裁くべき(1コリ5:12)

例4) 「御心なら…」 →前もった言い訳?! 適わない保険?!

→主イエスは、ゲツセマネの一度だけ(ルカ22:42)

→使徒パウロは今生の別れに(使18:21)

乱用厳禁

★ 主のみこころに歩むために ★

- 主イエスは、言葉と体験で弟子たちに教えられた。
身をもって学ぶ大切さ。決断して踏み出そう。
失敗しても、悔い改めれば、それすら益とされる。
- 私たちには、神の似姿として自由意志が与えられている。
愛するか、憎むか。受け入れるか、拒むか。私次第。
与えられた自由意志を、御心に適って実行していこう。

主の御言葉を、正しく聞き、ふさわしく従って行こう!!

てんとうわわたし「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたしあかみこしゅ「私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

わたしつみあがなじゅうじかし「①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はかほうむ「②墓に葬られ、

みっかめふっかつしん「③三日目に復活されたこと、を信じます。

わたしおなふくいんしんひとびとちお「私たちと同じく、福音を信じる人々をこの地に起こしてください。

わたしうちしゅみこころただ「私たちの内にあっても、主の御心が正しくなされていきますように。

わたししゅみことばきしたがまなじっこう「私たちは、主の御言葉に聞き従い、学んだことを実行します。

しゅえいこうあらわわたしつかもち「主の栄光を現してください。私たちを遣わし、用いてください。

かんしゃしゅないの「感謝して、主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」